



令和3年度 東京都立八王子北高等学校 学校経営報告

教 育 目 標

- 1 自らの可能性を伸ばし、自己実現を図るたくましさを育成する
- 2 互いの人格を尊重し、思いやりや規範意識を育成する
- 3 社会貢献できる人材としての基礎力を磨く
- 4 自ら学び、考え、挑戦する態度を追求する

【1】目指す学校

本校の教育目標及び地域の期待を踏まえ、地域の信頼と期待に応える中堅校として、グローバル化する未来にて社会貢献し自己実現を図れる、人間性豊かな人材を育成する。

① 生徒の可能性を伸ばし、進路実現を図る学校

健全で明るい校風の中で、文武両道に励み、「わかる」を実感させる授業で、基礎学力の定着から「考える」を大切に「できる」までの確かな学力を育成し、生徒の個々の可能性を伸ばす進路指導を丁寧に行い、生徒の希望する進路を実現する学校にする。

② 学校教育活動により、自主自律を育成する学校

学校行事や部活動で培われる思いやりや規範意識を重視し、生徒同士がチームとして一体となり文武両道を実践しながら、生徒の自主自律の精神を育成する学校にする。

③ 地域貢献を実践し、自尊意識を高められる学校

学校地域との交流・連携をこれまで以上に深め、達成感や自身の可能性を実感することにより、自尊意識を育成する学校にする。

④ 新たな時代にたくましく生き抜く人間力を育成する学校

生徒が、積極的に挑戦する気概を醸成し、失敗を恥じることなく課題解決のために自ら主体的に考える探究力を身に付け、粘り強く自己実現を図れる人間力を育成する学校にする。

【2】今年度の数値目標の達成状況・自己評価

()内は平成28年度から令和2年度まで5年間の実績値推移で赤字が今年度の結果

①目標：計画的な業務遂行により時間外勤務時間45時間以上 0人

45時間以上5.5人⇒6人⇒7人、80時間以上1.3人⇒3人⇒0人、100時間以上0.5人⇒0人⇒0人

○これまでの日常とは異なる作業として、インターネット授業配信の準備や授業スタイルの構築など新たな業務が発生しながらも、在宅勤務という形態が普及した。

○学校評価アンケート【働き方改革に取り組んでいる】肯定評価は、教員83%

②目標 地域と連携した探究学習活動 6回 9回

○活動内訳は、フィールドワーク2回、校内学年別中間発表2回、八王子コンソーシアム発表2回、八王子市長への提言1回、避難所設置訓練1回、八王子市総合災訓練1回と多くの機会を与您えていただき活動できた。

○学校評価(探究的学習により考える力が身についた)肯定評価は、生徒74%、教員88%

③目標 入学者選抜の最終応募倍率 推薦3.60倍 学力検査1.37倍

推薦 3.8→3.5→3.7→3.5→2.9⇒3.2

学力検査 1.55→1.39→1.35→1.30⇒1.04

年度別公立中学校3年生生徒数は右グラフのように推移している。都内も八王子市内も増加しているが、昨年度からの都立高校人気に陰りがある中で、苦戦を強いられた。



④目標「考える・表現する」を育成する授業改善検証として2学期期末考査での言語表現・考察力・初見問題出題割合100%

表記97.6%⇒97.8%⇒98.1%、思考83.3%⇒93.5%⇒95%、
初見問題42.9%⇒67.4%⇒75.1%

○考査検証の結果、初見問題として問題選択能力開発が課題である。

○模試の学習調査結果は、授業に目的を持って取り組む、考査後に誤った箇所を確認・訂正する割合が例年以上に大きく伸びている。授業が理解できない・ついていけ学習に心配があるは、減少しているものの依然7割ほどが存在している。授業を理解できている割合は増加し、英語でさえ理解できていない割合は1割程度である。

○学校評価アンケート【多くの授業で「わかる」を実感できたり、「考え方」を学べる授業工夫が行われている。】肯定評価は生徒82%、教員97%

⑤目標 平日家庭学習1時間以上の割合1学年60%、2学年40%

1学年：13%⇒14%⇒14.7%⇒20.5%⇒23.6% 2学年：23%⇒15%⇒14%⇒14.3%⇒27%⇒18.9%

○模試の学習調査結果は、休日家庭学習時間は、1年生34.7%2年生24.7%と平日よりは多い。

宿題は宿題・課題のある教科の宿題は8割以上が必ず行い、予習・宿題する割合は、前回より伸びている。

○学校評価アンケート【宿題や週末課題の量は学習の定着をはかるのに適切である】肯定評価は、生徒76%
教員80%。

⑥目標 3年間を見据えた進路指導により

(ア) 大学・短大進学者数65人以上 49人⇒58人⇒65人

(イ) 就職率(就職希望者に対して)の100%維持 100%⇒100%⇒100%

○学校評価アンケート【模試、夏期講習、補習・補講、進路ガイダンス、面接等新希望の実現を目指した指導は適切である】肯定評価は、生徒88%3年生の保護者71%教員97%

○今年度は総合型選抜受験者が24人急増、探究的思考で東京薬科大学・日本大学に合格

⑦目標 活動加入率83% 81%⇒74%⇒79%

○学校評価アンケート【部活動に目標を持って主体的に取り組んでいる】肯定評価は、生徒89%保護者88% 教員88%

⑧目標 SCやSSWと連携した教育支援を充実させ、中途退学生徒の0人 0人⇒0人⇒0人

○学校評価アンケート【教員、SC、YSWなど相談に適切に応じてくれる】肯定評価は、生徒91%保護者61%教員100%

○学校評価アンケート【生活アンケートの実施などいじめの早期発見に日頃から取り組んでいる】肯定評価は、生徒88%保護者43%教員98%、否定評価生徒12%保護者9%教員2%

⑨目標 広報活動を充実させ、学校説明会の来校者数・配信動画視聴者数(中学生、保護者)1,600人以上 900人⇒1520人⇒565人但しYouTube動画視聴2556回⇒2,431人

⑩目標 本校ホームページ充実によりアクセス回数100,000回以上

80,000回⇒170,000回⇒110,000回

○学校評価アンケート【ホームページ、学校案内、部活動紹介、学校説明会などで積極的に情報を発信している】肯定評価は、生徒84%保護者76%教員93%地域14%

【3】上記11項目に対応する課題と対策

項目①

(課題) 教員のキャリア・ライフバランスの充実を図る

(方策) 観点別評価導入に伴い共通テストの導入。部活動顧問複数体制の効率的働き方及び部活動の合理的効果的指導方法による短時間で効果を引き出す指導検討、閉庁日の利用、男性教員の産休取得などの環境を整備する。

項目②

(課題) 探究学習の指導スキルを向上させる。

(方策) 生徒の学習機会に合わせて、講師を招聘し講評を得ることで、生徒への対応スキルを学ぶ。

生徒自身が生徒から学び取れるよう、上級生の発表をモデルとして見せる。

多くの挑戦ができるチャンスを与え、「できる」を体感させられる取り組みを増やしていく。

発表の機会を多く設定し、生徒が自ら自己肯定感を育める環境をつくる。

あらゆる教育活動での探究学習活動の思考や実践を通し、「Good Try!」の精神の啓発を継続する

項目⑦⑧

(課題) コロナ禍感染拡大防止対策の中で、生徒の部活動・学校行事活動を活性化させる。

(方策) 実施方法について、予備の策を用意しながら対応する。

ア. 教員連携を確実にして、小さな兆候も見逃さずに、学校として共有し迅速に行動する。

イ. これまでの東京都教育委員会の対応、感染容貌対策を鑑みて複数の策を立てる。

ウ. 部活動の活動目標を明確にし、自主的に取り組む方法を常に意識しながら活動をする。

エ. 感染予防を「新しい日常様式」に照らし合わせ意識し、実行を徹底させる。

項目④⑤⑥

(課題) 多様な進路希望を積極的に叶える指導

(方策)

ア. 進学について

総合型選抜受験者24人うち、東京薬科大学、日本大学の合格が出た。探究学習により身に付けた、探究的論理的思考を使い、総合型選抜受験に対応できる力を育成する。また、1年生の段階で、大学訪問を実施し、進学意識を堅持しながらも対応できる学力を身に着けるための授業方法及び時間を確保させる。学年と教科で連携した学習時間確保のための手立てを立てる。分析会による個々の生徒や学校の弱点克服検討、内容明確化の夏期講座を設定する。

イ. 就職について

今後も、丁寧な指導を継続することにより、100%進路実現を継続する。

項目③⑨⑩

(課題) より早期に確実に「本校の期待する生徒の姿」を案内し、より積極的な地域との連携貢献を図る。

(方策) 都立高校に来年度は学級増計画があるので、中学生及びその保護者に対し、本校の教育を確実に広報する必要がある。また、地域に対して信頼される学校としての取組を充実させる。

ア. 学校説明会10月11月に実施し、部活動体験の組織的計画をしていく。

イ. 学校説明会、見学会のリニューアルを検討し、生徒の活動の見える化をより明確にする。

ウ. 中学校の上級学校説明会などの外部学校説明会の地域を拡大する。

エ. 広報活動としての学校HPの見やすさの構築と積極的更新を図る。

オ. 上級救命講習受講の技術は継続練習により体得し有事に自信をもって使用できる。そのため、地域の防災訓練に参加生徒を増やし、防災意識を育成し地域防災を支えられる人材を育成する。